資 料 3

「島根創生計画」（案）骨子に関する意見への対応

１．島根県総合開発審議会　p1

２．地域広聴会　p6

３．市長、町村長との意見交換会　p19

４．女性活躍 100 人会議　p23

５．知事と語る車座トーク　p28

○分類

A　素案に反映させていただいたご意見

B　継続検討とさせていただいたご意見

「島根創生計画」に係る
第50回総合開発審議会
（令和元年７月３日）
でのご意見

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

０ 計画全体の考え方

1 民間は最少人数で効率よくやっているが、県職員は多過ぎるのではないかと感じる。組織を効率化し、費用を捻出して他の事業に回すべき。

2 人口減少時代について、個が大事にされるという良い面もあるのではないかと考えるときがある。減少を受け入れて、人口減少時代をいかに幸せに生きるのか、ということを考えることも、今後につながっていく議論として大事ではないか。

3 分かりやすい言葉で、県民一人ひとりの気持ちに響く計画を作成してほしい。

4 出生率を上げることが政策として必要であることは理解するが、そもそも人はなぜ子どもを産むのか、いろんな条件を整えたら本当に子どもを産むのかを踏まえた取組が必要ではないか。島根で出生率が高い理由、例えば島根では人と人の緩やかなつながりが社会に残っていることなど、島根の強みはどこかにあるのかをよく分析し、その土壌を伸ばしていく施策を検討して欲しい。

5 現計画期間の施策が上手くいったのか、いかなかったのか、その原因はどこにあるかなど、総括をしてほしい。

6 さしあたって国民の希望が実現した場合の出生率1.8の達成をできるよう、いろいろな施策を講じていただきたい。

7 全庁の事業をただ網羅的にとりまとめただけに見えるので、特徴を出してほしい。

8 今後、団塊世代の引退を考えた時に、これらの世代が担っている美しい水田の維持、地元でとれた食材を生かしたおいしい食といった、島根の魅力をどう担い、補っていくことができるのか、一緒に考えていきたい。

9 どの施策も重要な事柄であり、計画書が総花的にならざるを得ないということはあるが、とりわけ力を入れるところを示し、具体的な行動や取組を起こしていただけるようお願いする。

10 県内に整備されているＣＡＴＶが、双方向での情報共有が可能となってきた点を活用し、在宅診療や買物難民解消など、社会構造の変化に対応していくような取組を行うべき。

Ⅰ 活力ある産業をつくる

11 農業の担い手が減っている。現在、リース事業により若者でも初期投資を抑えて農業に参入できるよう取組が行われている。やる気のある若者をＵターン・Ｉターンにより呼び込むための施策を考えて欲しい。

12 スマート農業の導入など思い切った手法により農業のコストを下げ、若者を島根県の農業に取り込んでくる体制をつくることが必要。

13 中小企業の廃業・倒産が年々増加し、今後さらに増えていくことに危機感を持っている。このため、事業承継や定年の延長、小さくても有望な企業を育てていくための金融のあり方といったことについて、金融機関、行政あるいは経済団体が一緒になって取り組んでいくことが必要。

14 島根はまだまだ雇用の場が少ないと感じる。また、都市と競うばかりではない、島根ならではのいい会社がたくさんある。雇用の場を広げる取組と、島根の良い会社のＰＲの取組をお願いしたい。

15 今後、在宅介護の需要が増えることが見込まれる。このため、テレワークを使うなど、介護をしながら仕事ができるような体制を各企業が作り上げるための支援を、行政、金融機関、経済団体が一緒になって行う必要がある。

Ⅱ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

16 特に乳幼児期にしっかり遊び、心身ともに豊かな成長・発達ができるような子どもの環境づくりが必要。このことが、将来の魅力ある高校づくりなどにつながることを理解し、幼児期の教育に取り組んで欲しい。

17 女性が子育てしながら安心して働ける環境への支援に感謝している。一方で、子どもを朝早くから夜遅くまで施設で預かってもらうことになり、家族での食事や団らんが少なくなることは、子どもの側からみて危惧しており、子どもたちへ配慮した施策となるようお願いしたい。

18 若い夫婦が、金銭的な事情でどうしても共働きをしなくてはならない場合には、子どもたちが愛情を子どもにしっかり与えられるよう、それなりの行政からの支援を行うなどの施策の検討をお願いしたい。

19 社会のために個人があるのではなく、一人ひとりの幸せの集積が島根の幸せにつながるものであり、政策においてもそういった視点で検討が必要である。女性活躍のために放課後児童クラブ、待機児童の解消を進めるという戦略については、子どもにとって豊かな幸せな放課後や休日を過ごす戦略とはどのようなものか、親の立場だけでなく、子どもの立場にも立って、検討することが必要だと考える。

20 ロストジェネレーションという世代には、仕事の状況から子どもを持つことに躊躇する方もあったのではないかと感じるので、そのようなことが後の世代に続かないようになるといい。

21 人口対策のためには、子育て世帯への支援策が必要だと考える。こういった分野へも、思い切って支援していくようなことがあってもいいのではないかと考える。

Ⅲ 地域を守り、のばす

22 暮らしの基盤を支える道路網の整備、とりわけ高速道路網の整備については、救急医療の体制整備に非常に効果がある。医療提供体制の充実の面からも、高速道路をはじめとする道路網の整備を進めるべき。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

23 女性が元気な島根県ということを強く支持している。女性の視点に立って島根県の強みを分析し、強みを伸ばす施策を広げてほしい。また、その強みを全国にＰＲして欲しい。

24 ふるさと教育を徹底的にしてほしい。地元の高校を出て、地元の大学で入って、地元の産業へついていく好循環を創出することが必要であり、そのための幼保小中高大の連携、教育と産業との連携に取り組むことが必要。

25 女性・高齢者・障がい者に活躍していただくための施策はあるが、壮年期の男性も地域でもっと活躍してもらうことが必要である。

26 看護協会では長くワークライフバランに取り組んできたため、必要な制度等について整備が進んできたと感じるが、民間企業の状況をみるとまだまだ整備されていないと感じるところもあるので、女性活躍や出生率上昇にあたっては、女性が働きやすい環境づくりを強化していただきたい。

27 ふるさと教育の積み重ねが、島根に帰ってきたいという子どもたちの声につながっていると感じる。人口減少対策の中で「島根を愛する人づくり」は大きな柱の一つになり得、ふるさとへの思いのある子どもたちをどう育て、島根に戻し、関係を維持しておくかということについて、福井県、海士町、知夫村などの取組もヒントに取り組んで欲しい。

28 吉賀町では、「サクラマスプロジェクト」により、将来の吉賀を担う人材育成に取り組んでいる。この中で、子どもたちから将来吉賀に帰ってくるという言葉が聞けるようになってきた。ふるさと教育で子どもたちへ「帰ってきてほしい」と具体的に話すことや子どもたちが帰ってきたいと思えるような施策を具体的に進めることが大事。

29 ふるさと教育を推進し、自然など島根のいいところを掘り起こして次にゆだねていくべき。

30 ふるさと教育は、15歳から18歳の層に踏み込んで強化を。島根を担いたいと思え、地域課題に向き合っていける人材を輩出できる高校教育に向けて、一層取り組んでいただきたい。

31 県外から移住した経験から、何を豊かとするかということが大事だと感じている。どの自治体も移住・定住が取り合いになっていて、ＰＲに必死感・悲壮感が出過ぎて、移住者が求めている情報とかニーズの部分を本当にＰＲできているのか、一方通行になってはいないかといった疑問を感じている。もっと、住民の満足感が内側からにじみ出るような、地域の中からの高まりを感じられるようなＰＲが必要ではないかと感じる。

32 空き家がたくさんある。これらを活用し、島根で住みたいと思っている人が簡単に住居を見つけることができ、住むことができるようになれば、島根にUターン、Ｉターンする人が増えるのではないか。

33 進学・就職・結婚等のライフイベントで人口が動くことを踏まえ、大学をはじめとする学校や、県内の中小企業の魅力化に努めてほしい。魅力ある学校や企業づくりについて、既に取り組まれている例もたくさんあるが、その魅力が知られていないのが残念。今後は、県外・全国に向けてＰＲの強化をしてほしい。

34 教育と就労が連携し、学生と県内企業のマッチング等を含めた形で県内就職を進めるＣＯＣ＋が今年度で補助期間が終了する。大学も継続する意向であり、県の協力もお願いしたい。

35 大学進学等での県外流出をどうするかが肝だと率直に思う。教育現場と就労の連携をもっと深め、県内就職を進めていく必要がある。また、地元の大学から県内に就職する学生もさらに増やしていく必要があると考える。

36 県内就職率を高めるためには、県内の高校卒業生が県内大学へ進学することが大切。これを進めるためには、教育委員会や高等学校の協力が必要であるため、大学との連携についてお願いたい。

37 帰ってこれる島根をつくるということで、企業支援や地域活性化に取り組んできたが、教育やそれにかかわる人づくりに行き着いた。この人づくりをする人材が本当に島根で育っているかという点が重要。コーディネーターや公民館職員などの人材を育成してほしい。また、コーディネーター等が組織的に動けるような機会も必要。

38 地元で働く喜びや島根の魅力について、学生はもちろんであるが、保護者も含めしっかりと伝わるようにしていくことが必要。

Ｖ 健やかな暮らしを支える

39 県西部の医療提供体制は非常に深刻な状況となっている。住民の安全安心な生活を守るということは、基本中の基本であり、そのための地域医療の充実を行う施策を充実してほしい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

40 公民館を核とした地域づくりにおいて、現状は定年退職された方などが職員として頑張っていただいている。地域を担う人づくりといったことを考えた場合、もっと若い人が公民館で活躍できるよう処遇も含めた検討が必要ではないか。

41 ここ数年、全国的に国産材の生産量が伸びており、県内の木材生産も全国平均を上回る状況で増えている。こういった林業の振興は、中山間地域の雇用創出にも非常に効果があるのではないかと考えている。今後は、人口が減る中で、いかに少ない人数で仕事をし、収益性を高めていくかが重要である。林業の世界でも、無人化のような技術革新を期待しており、思い切った技術開発に取り組んでいただきたい。

42 子どもの数が安定しないため、保育士の正規雇用が難しいことや、県西部に養成校がないことなどもあり、保育士不足に悩んでいる。

43 何もゆかりのない人に移住してもらうことは難しいので、出郷者をたぐり寄せるのが近道ではないかと考えている。その際、出郷者に突き刺さるキーワードだったり情報をきちんと届けるなどの取組が大事ではないか。親世代との同居は反発も有るが、一世代空くと良い関係築きやすいので、孫ターンをターゲットに絞ってみるなど、ターゲット層を絞って、効果的なＰＲを行ってはどうか。

44 離島・中山間地域の助産師が、スキルアップのため一定期間都市部へ出向する助産師出向事業により、山間地やへき地の周産期医療が確保され、助産師が増えるといった成果がみられる。本事業の継続と、看護師への拡大を検討していただきたい。

45 県立大学（浜田）のサテライトキャンパスを浜田の町の中に作るなどにより、中心市街地に若者が増えることで、お店ができたり、高齢者の活躍の場ができたり、眠っている資源の活用につながるのではないかと考えている。

46 農福連携に取り組んでいるが、全国的には水産での連携も進んでいる。浜田の水産を活かしてそういった取組を進め、福祉を核にした町づくりをしたい。

「島根創生計画」に係る
地域広聴会でのご意見

○開催実績

日　　時	区　分	開　催　場　所
7 月 13 日(土) 13:00～15:00	浜田会場	いわみーる 4F 401 研修室 :浜田市野原町 1826-1
7 月 26 日(金) 10:00～12:00	益田会場	ジャストホール 多目的ホール :益田市遠田町 2179-1
7 月 28 日(日) 13:00～15:00	隠岐会場	ふれあいセンター 2F 会議室 :隠岐の島町城北町 1
7 月 29 日(月) 13:00～15:00	松江会場	島根県民会館 3F 大会議室 :松江市殿町 158
8 月 3 日(土) 10:00～12:00	出雲会場	朱鷺会館 大ホール :出雲市西新町 2 丁目 2456-4
8 月 3 日(土) 14:30～16:30	雲南会場	チェリヴァホール 3F 大会議室 :雲南市木次町里方 55
8 月 4 日(日) 15:00～17:00	大田会場	大田商工会議所 3F 大ホール :大田市大田町大田イ 309-2

７月１３日[土]　　浜田会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

０ 計画全体の考え方

1 人口減少で今までどおりにはサービスの提供が難しくなる中で、どのような対処が可能なのか私たちも考えなければいけない。重点項目を決めて取り組んで欲しい

2 新計画の策定に向けた今後の流れを示すとともに、新計画の素案に対しても県民が意見を述べられるよう、パブリックコメントを募集する際は、県民へしっかり広報して欲しい。

3 人口減少対策については、そもそもなぜ少子化等が進んだのか、その原因が分からない。まずはその原因を踏まえ、対策を立てて欲しい。

4 出生率向上だけを目標にするのは問題があり、子どもを増やすことも大切だが、子どもがしっかり育っていくことが大事。問題点を把握した上で、経験者の意見も聴きながら、どのように伝達すべきなのか考えて欲しい。

5 合計特殊出生率が高い水準であることは、素晴らしいことである。くれぐれも戦時中の「産めよ殖やせよ」のような政策とならないよう、慎重に取り組んで欲しい。

Ⅰ 活力ある産業をつくる

6 地方は所得水準が低く、余裕があって安定した所得がなければ、若者が地元へ帰ってこようと思わない。そのような所得水準の雇用の場を増やして欲しい。

7 生産性の向上だけを目指すのではなく、大規模ではない農家でも取り扱える美味しさを売りにした野菜の特産品化などにも取り組んで欲しい。

Ⅱ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

8 保育所は、子どもは減っているが、利用率は上がっている。夫婦共働きが増える中、産前産後ケアも含めて、子育て支援に力を入れていくのは良いことであり、現状で何が足りないのかを見極めて取り組んで欲しい。

Ⅲ　地域を守り、のばす

9 野菜の受粉を行う蜜蜂などにとって有害な農薬や発がん性のある除草剤が広まっている。自然環境の大切さを再認識し、また、生産性の向上だけを目指すのではなく、大規模ではない農家でも取り扱える美味しさを売りにした野菜の特産品化などにも取り組んで欲しい。

10 農林水産業はいずれも厳しい状況にある。特に中山間地域においては、条件が悪いからといって支援がなされないと、倒れてしまうため、手遅れとならないよう一次産業へ支援して欲しい。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

11 島根は「地域留学」において全国で最も人気がある。受け入れる側が学ぶことも多く、高齢者の活躍の場の創出や、関係人口の拡大、さらには家族や知人のＵＩターンの契機ともなるため、積極的に取り組んで欲しい。

12 地域の活性化や交流人口の拡大に向け、県立大学の学生が中心となって交流イベントを企画し、地域が明るくなったと地元から感謝された。大学生は卒業後に島根に残る者が少な

く継続が難しい面があり、地元の方が地域のための取組を始めやすい環境を作って欲しい。

13 県における女性の管理職への登用を計画に盛り込むなどにより、女性の活躍の場を広げて欲しい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

14 県外で開発されたものでも良ければ取り入れて地元へ広め、条件の良い雇用を生み出すような取組に対しても支援して欲しい。

15 子どもを増やすには、２人目や３人目の子どもが生まれた家庭への財政的な支援が有効である。その財源は、例えば公費で建設した老人ホーム等の入居者から募るのも方法の１つであると思う。

16 イベント等が県東部に集中しており、また、審議会等の公募委員に応募したら面談のための旅費が自己負担であったりと、西部にはハンデキャップがあるため、配慮して欲しい。

７月２６日[金]　　益田会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

Ⅰ 活力ある産業をつくる

1　地元の文化財保存活用地域計画が文化庁から全国初の認定を受けたが、国と県と市町村が連携し、こうした歴史・文化を活用した観光振興に取り組んで欲しい。

Ⅲ 地域を守り、のばす

2　萩石見空港はかろうじて２便化が維持されている。２便目がコンテストの不要な定期便となるよう取り組んで欲しい。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

3　高校生などが地元で頑張っている大人と出会う機会を創出する取組を始めたところ、地元就職率が改善した。そうした大人との対話は定住やＵＩターンの動機付けにとても有効であり、その輪を広げていただきたい。

4　若者が地域のために何かしようとすると、地域の住民や公民館などが応援してくれる環境が田舎にはある。仕事以外でも活躍の場所があることを田舎の魅力として宣伝し、盛り上げて欲しい。

Ⅶ 暮らしの基盤を支える

5　自然エネルギーはいろいろあり、日本は技術もあるので、活かすところに力をいれてほしい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

6　「社会福祉」という言葉は、社会的に大きな意味を持っているため、計画に入れて欲しい。

7　高校生などが地域活動を行うために集える場所が不足している。高校生などが集えて、インキュベーションの利用者や大学生とも触れ合うことなどにより多様な価値観を培えるような場所の確保を全県で図って欲しい。

8　重たい障がいを持った子どもは、かなり遠い距離の施設に通っており、そうした施設の偏在を解消して欲しい。

9　原発については賛否両論あるが、事故を避けることは絶対であり、しっかりした安全対策をお願いする。

10　行政が先進的な取組をして情報発信すれば全国から視察が来る。これには観光と同じ効果があるため、ぜひ取り組んで欲しい。

11　島根県のホームページは必要な情報の掲載が無く、内容も充実していないため、改善して欲しい。

12　結婚・出産・子育ては２番ではなく１番にしてほしい。地域を存続していくには若い人が子育てをしてもらわないといけない。

７月２８日[日]　隠岐会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

０ 計画全体の考え方

1 ロボット技術や遠隔診療などを進める上で、ＩＣＴ技術は、ものづくり産業などとのハブ的要素であり、「ものづくり・ＩＴ産業の振興」は、５年後、10年後を見据えると今の書きぶりでは物足りない。

Ⅰ 活力ある産業をつくる

Ⅳ 島根を創る人をふやす

2 人材や人づくり、教育は、計画の全ての項目に出てくるもので大切で、小さいうちから地域や島根をどうしたらいいか考えることができるような環境を作ることが重要である。

Ⅶ 暮らしの基盤を支える

3 離島航路は、国道であり県道であるという点で、基本的な整備や使いやすさを考えるのは４町村でなく県だと考える。長崎県では、部分的に上下分離方式によりリプレイスとリフレッシュを支援しており、県としての公的支援の考え・精神を、創生計画の中に盛り込んでほしい。

4 ＩＣＴ技術を活用するためには、超高速インターネットの実現が必要であり、離島や中山間などでも出雲や松江と差が出ないようにインフラの整備を進めていただきたい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

5 有人国境離島を維持・振興するため、有人国境離島法に基づく運賃低廉化については、島外利用者を対象に含めるよう国に向けて強く要望するとともに、創生計画の中に盛り込んでほしい。

6 離島航路の運賃低廉化は、経済効果のためには外から島内に入ってきてもらう必要がある。島内だけでは難しく、予算を島外の方にも割り振ってもよい。

7 周年で隠岐から本土へ日帰りできるように、県が主導となって、運航業者や町村と一緒に利便性について研究し、この５年で考え方をまとめるような意気込みを持ってほしい。

8 フェリー運賃については、個人的には喜んでいるところもあるが、商売人としては島内で購入してほしいという気持ちがある。島外からも来やすくして欲しい。

9 商売で仕入れをする上で輸送運賃がすごく高く、本土の価格に太刀打ちできないので、これについて考えてほしい。

10 隠岐病院と島前病院は隠岐広域連合という同じ組織の中にあるが、島前の住民は、隠岐病院よりも本土の病院という考えがある。病院の圏域を考える上で、両病院の待遇等を同じにし、交流を進めることを考えてもよいのではないか。

11 北朝鮮から油井、蔵田に座礁船があったが、骨子に防衛の取組について記載がない。

12　隠岐内では人手不足で困っている。松江では大学生が労働力になっているが、県立大学の隠岐キャンパス、島根大学の水産学部などあると、隠岐が活性化するのではないか。

13　自衛隊を誘致するというような考えはないか。

14　世界レベルの自然、歴史、文化などの観光資源を活用し、観光産業を10年後、20年後につないでいくため、中長期的な視点で、人材育成や施設の老朽化対策などの民間事業者支援をしてほしい。

７月２９日[月]　松江会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

０ 計画全体の考え方

1　これまで蓄積された問題点が県政において有効活用されるよう、現場の声にしっかりと目を向けて施策に活かしていって欲しい。

2　市町村との役割分担もあるが大きいことも小さいことも同時に進めるような考え方で、施策に取り組んで欲しい。

3　他県も人口減少対策について真剣に考えている。他県の取組との差別化を図りながら取り組んで欲しい。

4　ＮＰＯ法人において自治体職員の研修の受入を行っているが、それがどのように行政に活かされているのかを分かりづらい。

Ⅱ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

5　産後ケアの取組があまり進んでいないため、しっかり取り組んで欲しい。

6　子どもにはゆとりのある家庭が必要であり、子育てに専念するか、働きながら子育てするかを、保育所や会社の都合ではなく、母親が主導権を持って選択でき、ゆとりを持って子どもと向き合えるよう、子育てヘルパーを養成して欲しい。

Ⅲ 地域を守り、のばす

7　中山間地域は集落営農なども厳しい状況にある。地域を担う若者の流出を止めるには雇用の場が必要であり、農業と他の仕事との兼業などを進めて欲しい。また、鳥獣被害などによってさらに人が住めない地域とならないよう、農山村の維持に取り組んで欲しい。

8　高齢となって車での移動が負担となってくると、現状では航空機での移動に限られてしまうため、新幹線の誘致についても検討し、計画に載せて欲しい。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

9　読書は子どもの育成にとって大切であり、図書館司書の活動が充実してきている。今後も力を入れて取り組んで欲しい。

10　子育てのための環境づくりについては、大人にとっての子育てのしやすさのみではなく、子どもが豊かに育つように大人がどう支えるかという視点でも環境づくりをしてほしい。

11　子どもが文化芸術に触れることで豊かに育つことを大切にするような環境づくりに取り組んで欲しい。

12　豊かな自然環境や大らかな人間性が島根の魅力である。そうした魅力を活かした住民活動が増えていくよう取り組んで欲しい。

13　島根は進学の選択肢が狭く、それが若者の県外流出につながっている。大学と企業が連携して専門的な授業を取り入れるなどにより、学ぶ場所、遊ぶ場所、働く場所などの選択肢を増やす取組を進めて欲しい。

14　両親から聞いて育った子どもは自然と地元に残るものである。胸を張って島根の良さを次の世代へ伝えていくことが必要であり、戦略的にそれを掲げて取り組んで欲しい。

15　地元が生んだ著名人を活用するなど、子どもたちが地元を愛するための教育を進めて欲しい。インターネットを使って地元に住んだまま都会から仕事を取ってくるような働き方を教えることも、キャリア教育に取り入れて欲しい。

Ⅴ　健やかな暮らしを支える

16　少子化対策としては安心安全な出産環境が必要であり、助産師が専門性を発揮できる働きやすい環境づくりや、現在の出向制度から一歩進んだ支援による助産師の育成環境づくりに取り組んで欲しい。

Ⅵ　心豊かな社会をつくる

17　島根の特徴を活かすためにはメリハリが大切である。多文化共生社会の形成に向けて、あらゆる人を受け入れるために何が必要なのかを考え、県が率先して取り組んで欲しい。

18　子どもが主体性を身につけるには、小さい頃から自ら考え発言する機会を与えることが大切であり、子どもの権利について大人がどう考えるか共通理解をもっと広めて欲しい。

Ⅷ　安全安心な暮らしを守る

19　治水対策が行われている所もあれば、行われていない所もある。人口減少の急速な石見部の対策としても、ぜひ安全安心な暮らしの確保に取り組んで欲しい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

20　若い女性が子育て中の他の母親と触れ合う機会があれば、負担感の軽減につながるため、そのような環境づくりを進めて欲しい。

21　計画の将来像に「笑顔」という言葉がある。裕福な人には笑顔があり、裕福ではない人には笑顔がないとは必ずしも言えないため、目指す「笑顔」の意味を県民に丁寧に伝えてほしい。

22　島根と沖縄はかつて同じような人口規模であったにも関わらず、なぜ現在のような格差が生じてしまったのかを研究して欲しい。

23　高校にケニアなどからの留学生を招いて陸上部の活性化を図って欲しい。

24　防災に役立つ土嚢作りの早さを競う大会の開催に向けて支援して欲しい。

8月3日[土]　雲南会場

A　素案に反映させていただいたご意見

0 計画全体の考え方

1 子育て支援にはこれまでも取り組んできたが、出生児の絶対数が少ない状況が続いており、これからも結婚・出産・子育ての支援にしっかり取り組んで欲しい。また、子育て世帯にとっては、産業・医療・教育の環境も重要であり、特に所得の向上には力を入れて取り組んで欲しい。

2 財務省は国債抑制と増税で財政健全化を進めているが、経済を疲弊させてはならず、消費を喚起して経済を活性化させるよう、国へ要望してほしい。

Ⅰ 活力ある産業をつくる

3 休耕田で牛を放牧すれば、耕作放棄地対策や鳥獣対策の一助にもなる。水稲農家と和牛農家が共同してそのような取組を行うなど、中山間地域の農村環境を守るための対策を行って欲しい。

4 雲南市や出雲市斐川町などが島根のシリコンバレーになれば良いと思う。そのためには最先端の情報が必要であり、東京などから高度産業人材を招聘しやすいよう移動や滞在の面などで支援して欲しい。

Ⅲ 地域を守り、のばす

5 島根には浜田港があり、鳥取には境港がある。鳥取県としっかりと連携し、一体となって力強い圏域をつくってほしい。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

6 地域のコミュニティパーソンがどのような想いを持って地域の活性化に取り組んでいるのかを知って欲しい。また、地域の住民がそれぞれの強みを活かし合い、補い合える環境づくりを後押しして欲しい。

B　継続検討とさせていただいたご意見

7 高校の統廃合については、将来的な生徒数の減少や校舎の老朽化なども見据えた上で、検討を進めて欲しい。

8 例えば、毎月何日か農休日を設定するなど、若者の農業離れを食い止めるための対策を行って欲しい。

9 外国人住民の移住によって人口が増えているが、その子供たちがきちんと教育を受けられるようにして欲しい。

10 人口減少に打ち勝つという表現は少し固いので、例えば、「人口減少を恐れることなく、キラリと輝き、ゆったりと笑顔で暮らし続けられる島根を目指す」などでも良いと思う。

11 参院選で合区とされた地域には、国が政策として特別枠によって支援を行うよう、国に対して要望して欲しい。

12　企業誘致や子育て世代の定住支援などを、市町村がそれぞれ独自に行うのではなく、より広域的な視点で自治体間の連携を強めて取り組んで欲しい。

８月３日[土]　出雲会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

０ 計画全体の考え方

1 地域づくりをどう進めるべきかを若者が集まって話し合う地域もある。施策はそれぞれの地域の状況に合わせて進めていくべきであり、そうした地域の声にしっかりと耳を傾けて欲しい。

2 先進国の中には日本より人口が少なくてもＧＤＰなどで成果を出している国がある。逆に、発展途上国では人口が増えすぎて食糧問題などが起きている国もある。人口減少は必ずしも悪いことばかりではなく、人口減少を前提として計画をつくる視点も大切であると思う。

3 県と市町村において、職員がお互いに新しい視点や様々な経験を身に付けられるよう、大幅な人事交流を行って欲しい。また、県と市町村が共同してプロジェクトチームを組み、政策提案をするのも良い。

4 例えばコウノトリであれば、飛ぶこともでき、餌を捕まえ、自分で子育てをすることもできるが、人間はそうはいかない。交通手段や雇用の確保、子育てへの支援にしっかり取り組んで欲しい。

5 今後も地域に出かけて県政について直接県民に説明することを続けて欲しい。また、１つの地域から出た意見が、他の地域の住民にも分かるように公表して欲しい。さらに、施策を実行した後に検証した結果なども直接県民に説明してもらえると良い。

6 島根創生は、県だけでなく市町村、民間、県民も含めてオール島根で取り組む必要がある。県と市町村の関係のあり方を考えて欲しい。

Ⅰ 活力ある産業をつくる

7 良い人材を確保するだけでなく、そうした人材に長く働き続けてもらえるよう、「働きやすい職場づくり」ではなく「安心して働き続けられる職場づくり」という表現とした方が良い。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

8 石見地方では、県外からのＵＩターン者が希望する職場を見つけにくい状況がある。求人に関する情報提供をしっかり行ってほしい。

9 奨学金制度などの情報が高校の教員などに伝わっていないことがある。県からの大切な情報や取組の内容がきちんと県民に伝わるよう、広報活動をしっかり行って欲しい。

10 中山間地域の住民は、少ない人口で、森林、川、農地などの環境を守り続けている。都会の生活は良い面ばかりではないし、田舎には豊かな自然に触れる機会があり、穏やかな人が多いなどの良さがある。そうした魅力を伝えて島根のファンを増やして欲しい。

Ⅵ 心豊かな社会をつくる

11 ブラジルやベトナムからの移住者が増えている。国民性や風習をお互いに理解することが必要であり、島根のことをよく知ってもらえるよう、県内を見て回るようなプランを作って欲しい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

８月４日[日]　大田会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

０ 計画全体の考え方

1　県の計画と市町村の計画との間で齟齬が生じないよう、県と市町村の連絡調整をしっかり行って欲しい。

Ⅰ 活力ある産業をつくる

2　林業は人工林からの木材生産を増やすことが主流であるが、このやり方では規模が小さく限界がある。天然林を含めた大きな団地を設定してスケールメリットを追求し、広葉樹を含め可能なら100年単位の利用計画を立てて取り組んで欲しい。

3　多様な働き方を選択できると、働きながら子どもと関わる時間が取れ、一定の収入も得られるため、そうした雇用環境を整え、劣悪な労働条件への対策などを行って欲しい。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

4　農業の担い手が減り荒廃地が増えている。安全安心である点や、車移動も楽で暮らしやすいなどの利点を島根の魅力として情報発信し、ＵＩターンにつなげて欲しい。

5　教育の魅力化に取り組んでいることを、ぜひ計画に載せて欲しい。

6　過去に海外ではオリンピックを契機に人口の増加や産業の発展などにつながった事例がある。スポーツや文化は教育や産業の振興と無縁ではなく、人づくりに欠かせないものなので、子どもたちが住み続けたいと思うきっかけとなるよう、しっかり取り組んで欲しい。

Ⅵ 心豊かな社会をつくる

7　学校から不登校児が生まれる仕組みを変えていくことや、安心安全な学校となるよう学校内に居場所を作り、きめ細やかな対応を行って欲しい。

Ⅶ 暮らしの基盤を支える

8　道路の整備や改良などにより、通学路の安全確保にしっかり取り組んで欲しい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

9　国体の招致が決まり、交流人口の拡大などの面で期待されている。しかしながら市町村側では財政面で不安もあるため、競技人口拡大、指導者育成、ハード整備などに関する県の方針を、できるだけ早く市町村へ伝えて欲しい。

10　人口減少を食い止めるのであれば、子育てのしやすさや、高齢者が安心して暮らせることを、産業の振興よりも優先してピーアールすべきだと思う。

「島根創生計画」に係る
知事と市長、町村長との
意見交換会でのご意見

○開催実績

日　　時	区　分	開　催　場　所
7月30日(火) 13:00～14:30	町村長	ホテル白鳥　鳳凰の間 :松江市千鳥町20
8月 5日(月) 14:00～15:30	市　長	ホテル白鳥　鳳凰の間 :松江市千鳥町20

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

０ 計画全体の考え方

1　市と町村、又はそれぞれの圏域で総合戦略は違ってくると考えるが、計画の第１編の中で、今後、圏域別に重要な事業や方針について示していく考えはあるか伺いたい。分かりやすい言葉で、県民一人ひとりの気持ちに響く計画を作成してほしい。

2　特徴ある戦略とするため、全国１位の項目を拾い出し、突破口としてはどうか。例えば、人口当たり100歳以上の人数が全国１位であり、長寿といったキーワードや、美肌県グランプリによる美肌といったキーワードが考えられるので、検討していただきたい。

3　人口減少対策のためには、子育てだけでなく、地域での生活環境全てを含めた環境の整備が必要だと考えるので、そういった視点での取組をお願いしたい。

4　行政だけでなく企業や住民も将来像・ビジョンを共有しながら総合戦略を策定していくことが必要である。

5　県と町村の職員が一緒に議論し、施策を実行していくような環境ができればよい。

6　IoTの活用、スマートシティの取組を進めるべき。

7　５Ｇなどへ対応したブロードバンド環境の整備に取り組むべき。

Ⅰ 活力ある産業をつくる

8　若者の働く場づくりに取り組むべき。

9　新規就農者の農産物の販路の拡大に向けた対策や、規格外品への販路対策などに取り組んで欲しい。

10　女性の林業就業者が増えつつあるため、林業の労力軽減のための機械導入や、研修、住まいの確保などにより女性でも安心して働くことのできる環境づくりに取り組んでいただきたい。

11　農地が急峻地で農業の競争力が弱いため、半農半Xや６次化、観光との連携など、各産業分野との複合的な取組を重点的に進めていただきたい。

12　中山間離島では、収益性の規模拡大だけでなく、半農半漁など、農業・林業・水産業を合わせて１人役というような働き方ができる担い手を育成していただきたい。

Ⅱ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

13　２人目、３人目の子育ての経済的負担軽減に取り組んでいただきたい。

14　これまでの子育て支援策により出生率の向上に繋がっている。引き続き、県による子育て支援の後押しをお願いしたい。

Ⅲ 地域を守り、のばす

15　新幹線整備に取り組むため、計画に盛り込むべき。

16　出雲空港、萩・石見空港など空港の活用強化に取り組むべき。

17　国際線誘致のために、知事による台湾へのトップセールスを行うべき。

18　小さな拠点づくりについて支援してほしい。

Ⅳ　島根を創る人をふやす

19　地元企業との協働による高校での就職説明会やＵＩターンフェアなどにより人手不足解消に努めているが、なかなか成果につながっておらず、外国人労働者に頼るなどの状況となっている。人材確保について何かいい方法があればご助言をお願いしたい。

20　産業づくりをになう人を都市部からどう呼び込むのか、具体策について掘り下げて検討していただきたい。

21　島根を愛する人づくりは、Ｉターン者が新しい視点を与えてくれるといった視点からも重要。今後、Ｉターン者の新しい視点による施策についても考えていく必要がある。

22　人づくりについて、教育・商工など部局横断で取り組んでいくため、地場産業の意見をよく聞いて進めて頂きたい。

23　島根はなぜ合計特殊出生率が高いのかや、女性の就業者の実態などについて深掘りすることにより、女性に優しい施策を打っていくことが必要。

24　若者・女性はどうしても現代風なアパートや住宅を選択されるため、都市部へ流れている。中山間地域のような民間資本がない地域でも、住宅についてきめ細やかに環境整備していくことが必要。

25　県内大学における県内出身者枠の拡充など、県内高等教育機関への地元からの入学者の促進に取り組むべき。

26　定住につながるふるさと郷育に取り組むべき。

27　高校生に県内大学等を選んでもらうなど、県内高等教育機関への地元からの入学者の促進に取り組むべき。

28　県内大学等へ進学した若者との関係維持のため、関係人口づくりに取り組むべき。

29　高校魅力化・地域と高校の連携推進事業について支援をお願いしたい。

Ⅴ　健やかな暮らしを支える

30　医療従事者の確保が厳しく、不安が大きい。医師確保について、支援をお願いしたい。

31　医師の高齢化・後継者不足などが深刻であり、地域医療の確保に取り組むべき。

Ⅵ　心豊かな社会をつくる

32　単身赴任ではなく、家族で移り住んでいただくためには、教育レベルの向上が必要。

33　定住に向けた日系外国人対策を、計画における大きな柱として盛り込むべき。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

34　自伐型林業について、専業だが収入が十分でないため、生業として立てることができるような方策を検討していただきたい。

35　隠岐の魚の9割以上が境港等に水揚げされるため、地元での消費につながらず、観光客のニーズにも対応できていない。

36　温泉などの地域資源を取り込みながら体験型や十分なおもてなしにより、魅力ある観光地づくりを進めていただきたい。

37 小さな拠点の担い手の法制化（法人化）について国へ要望しており、県にも支援してほしい。

38 地域医療確保のため、公立病院への財政支援を強化すべき。

39 島根留学などにより一度県内で学んだ人を対象に、人手不足の医療・福祉・保育等専門職分野において島根で就職していただけるための仕組みづくりを検討して欲しい。

40 〞（少し砕けた話も）県民歌を大事にすることが島根を愛する人づくりに繋がると感じており、県民歌という部分での人づくりについて知事のお考えをお聞かせ頂きたい。〞

41 移住者等により新たに宿泊業を展開しようとする若者が想定される。このような場合に、旅館、民泊等の宿泊施設への助成制度などの支援をお願いしたい。

42 県全体で保育料の完全無償化に取り組んでいただきたい。

43 農大に新設される予定の自営就農研修科の定員が5名であり少ないため、増やしていただきたい。

44 定住対策としての二段階移住に取り組むべき。

45 出生率より出生数を目標とすべき。

46 人材育成の取組をはじめ市町村と連携した人づくりを推進すべき。

47 市の強みを生かした働く場の創出のため、起業家誘致のためのプロモーションに支援してほしい。

48 日本語学校設置のための支援（具体的には改修費）をしてほしい。

49 地元に高校があることは非常に大きな要素であるため、地元高校を残していくことについて、県にも一緒に取り組んでいただきたい。

（参考）

女性活躍100人会議
でのご意見

○開催実績

日　　時	区　分	開　催　場　所
5 月 30 日(木) 9:00～11:00	大田会場	男女共同参画センター「あすてらす」 研修室 :大田市大田町大田イ 236 番地 4
7 月 9 日(火) 10:00～12:00	松江会場	サンラポーむらくも　彩雲の間 :松江市殿町 369
7 月 13 日(土) 10:00～12:00	浜田会場	島根浜田ワシントンホテル　すみれの間 :浜田市黒川町 4177

５月３０日[木]　　大田会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

Ⅱ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

1　最近の父親は子育てに協力的であり、祖父母などの協力も得られているが、仕事にしっかり取り組もうとする中で、子育てなどの不安もあり、支えがもっと必要と感じる。

2　放課後の子どもの預かりがないために、引っ越すという事例があり、住まい、子どもの学ぶ場と居場所、仕事がセットで整えられれば良い。

3　産後の回復が女性にとって非常に大変なこと。第２子出産にあたり、群馬県前橋市では、産後の家事代行ヘルパー派遣制度があり非常に助かった。また、主人が１カ月産休を取るため、転職した。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

4　Ｉターンで移住した後、住居以外に空いている建物や土地を借りるには、どこに相談すれば良いのか分からない。

Ⅴ 健やかな暮らしを支える

5　色々な方や行政と一緒になって、健康づくりをできれば良いと思っている。

Ⅵ 心豊かな社会をつくる

6　中山間地域での高校通学は負担が大きいので、高校の魅力化を図る上でも、通信制高校の魅力を伝えてほしい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

７月９日［火］　松江会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

Ⅰ 活力ある産業をつくる

1　機械農業のための助成金を県、市に要望したい。Ｉターンで来た方が、資金がないために農業をあきらめる若い人がいるので、もっと来てもらうために支援が必要。

2　鳥獣被害対策について、捕獲数制限があるが、農家にとって鳥獣は敵であり、檻の中に自分たちが生活しているという現状を含めて県に要望したい。

Ⅱ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

3　兄弟を別々の保育所に預けざるを得ない現状があり、そこがもう少し充実すれば良いと思う。

4　第１子の産前産後の相談による支援が一番の問題。病気になった時の緊急時の預かり支援など、頼れる先が誰でも分かるような情報が伝わる仕組みができれば良いと思う。

5　お母さんがほっと出来る居場所づくり、サポートする環境づくりなどに取り組んでもらっているが、情報提供がもう少し進めば良い。女性が子育てをしながら、気持ちよく働けるようなサポート体制が大切。

6　看護、介護、保育は社会の全てにつながるものであり、一企業の企業努力では限界がある。保育所や病院などは行政の管轄する部分が大きいと思うので、そこで働く人の処遇等をよく考えて欲しい。その分野で働く方が介護や育児を超えて、楽しく働くことが、後進の目標になるので、力を注いでいただきたい。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

7　子育て支援は段々充実しつつあるが、親の介護が負担になり、仕事を辞めざるを得ないことが増えつつあり、課題と思う。

8　島根創生計画の中で、島根を創る人づくりということが出ていたので、是非子どもに投資をお願いしたい。

9　平成４年度に「しまね女性の翼」で海外に研修に行ったが、その時の仲間が活躍しており、もう一度女性に投資をお願いしたい。

Ⅴ 健やかな暮らしを支える

10　在宅で痰吸引ができる看護師、介護ヘルパーの数が出雲保健所管内は300人、松江が1桁という差があり保健所も原因を把握していない。隣接市で差が出ないように有資格者を増やして欲しい。

Ⅵ 心豊かな社会をつくる

11　公的な役について、主人の機嫌が悪くなるという理由で引き受けてもらえない。男女共同参画勉強会に男性が出席するよう持って行かなくてはならない。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

７月１３日[土]　浜田会場

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

Ⅰ 活力ある産業をつくる

1 再就職に際して、第２子、第３子の妊娠、出産のタイミング、子育て中の休みの取り方などを考えると、仕事をしながらの子育てについて心配になる。

Ⅱ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

2 自分たちの活動の中でお母さんからのアンケートを行っているが、その結果で、以下のような意見があった。①医療費助成を県内で統一して均等にして欲しい。②経済的理由で1人しか生めない。③産みたくても産めない。（不妊治療中）④希望する場所の保育園に入れない、望む保育をしているところに入れない。⑤産後の鬱について、サポートが必要。

3 産後直ぐは車の運転も出来ず、孤立しやすい状況。訪問型の産後デイケアに市と連携して取り組みたい。産後鬱の早期予防が孤立解消のきっかけづくりをお手伝いしたい。

4 子育ての経済的な負担に対する支援が手厚いほど子どもを産むと思う。産後サービスなどワンオペに対する支援があれば、もう一人子供を産んでみようという気持ちになると思う。

5 児童クラブの指導員の不足が問題と思う。指導員が確保できれば、子どもを預けることが可能かと思う。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

6 女性が、子育てしながら活躍するためには、男性がもっと休める環境が必要。経済的な支援や社会全体で子どもを育てやすい雰囲気が広まってもらいたい。

7 今年４月に女性活躍の表彰をいただいたが、西部ではそうした取り組みや意識が希薄な企業が多いので、企業が職人の世界で女性の思いを吸い上げるような仕組みを考えていくことが必要。

8 一旦東京に出て子育てした３年間は大変だったが、島根に帰ってきて本当に良かった。子育てしやすい島根県の良さをもっとＰＲしていければ良い。

Ⅶ 暮らしの基盤を支える

9 公共交通機関がないため、車でないと移動出来ない。スクールバスはあるが、時間帯が違えば、結局迎えに行かざるを得ないので、習い事のある人は大変。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

10 アンテナの高いお母さんは、自分で学んでいくが、そうでない方には乳児検診の時などに学ぶ機会を作っていけば、子どもたちの発達にも結びつく。

11 子育て支援センターは働いている人が利用できる時間帯ではない。働いている人が、休日に子どもと一緒に過ごせる場所、リフレッシュする場所があると子どもと一緒に出かけることが出来ると思う。

12　次男が通う私立幼稚園は園舎が築60年、隣接が築110年であり、耐震基準を満たしていない。幼稚園側は改修を希望しており、国補助1/3はあるが、県や市は陳情しても動いてもらえない状況。

13　出産に関して病院のＨＰがなく、病院の善し悪しや出産後の定期検診等の情報が分からないのが不安。周りに浜田での出産経験者がいなくて、情報を得ることも出来ない。

（参考）

知事と語る車座トーク

でのご意見

○開催実績

日　　時	区　分	開　催　場　所
5月30日(土) 13:30～15:00	大田会場	石見銀山世界遺産センター 　:大田市大森町イ 1597-3
5月30日(土) 15:30～17:00	大田会場	県大田集合庁舎 　:大田市大田町大田イ 1-3
7月 5日(金) 10:00～11:30	松江会場	島根県職員会館　教養室（１） 　:松江市内中原町５２

５月３０日[木]　大田会場　「文化財を活かした地域づくり」

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

Ⅳ 島根を創る人をふやす

1　子どもに、本物に触れる体験、地域の財産を学べる場所を提供するような仕組みづくりが大事。

2　観光地で盛り上がっているところは、地域の人が誇りを持っている。地域資源を活かして、積極的に子どもたちが学べる機会をつくる、その仕組みづくりが必要。

Ⅵ 心豊かな社会をつくる

3　古代出雲歴史博物館での石見神楽展などイベントを実施すると、埋もれていた文化財が発掘され記録が残る。定期的なイベント開催、継続的な文化財調査を望む。

4　「神国島根」は出雲だけではない、石見や隠岐も含むトータルでＰＲしてほしい。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

5　三瓶周辺を観光資源として、地域を何とかしたいなら、来訪者にわかりやすい標示が必要。施設を充実してもたどり着けなければどうしようもない。

6　埋没林施設の価値を市民に分かってもらいたい。特に子どもたちの教育に「これは財産なんだ」と盛り込む。子どもに伝わればその次の世代につながる。

５月３０日[木]　　大田会場　「ビジネスチャンスをつかみ、活かしていくには」

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

Ⅰ 活力ある産業をつくる

1　とにかく人手不足。フルタイムだけでなく、パートやアルバイトも確保できない。アイディアはいっぱいあるが人がいなくてできない。

2　離職率を下げるために対策が必要。そのために職場体験のやり方も工夫が必要。

3　お年寄りに特化した街づくりをしてはどうか。リタイヤした人たちにＵＩターンしてもらい、登録しておいて、電話一本で来てもらえるような高齢者の派遣会社のようなものをつくって、働き手を確保する。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

4　外国人が増えてきていると聞くので、アルバイトなど就労してもらうとうれしいが、実現していない。ワーキングホリデーで来日する方も対象として有効ではないか。

5　今は、高校でアルバイトが禁止されているため、社会に出る前に働く経験ができない。そのため、職場でコミュニケーションがとれず離職する事が多い。

７月５日[金]　松江会場　「島根ならではの情報発信～新たな挑戦～」

Ａ　素案に反映させていただいたご意見

０ 計画全体の考え方

1　インターネットはこれからもっと凄いことになる。速度が５Ｇになるのは、道路が、一車線から百車線くらいになるイメージ。アルゴリズムは人気があったりいい情報ほど上位表示される世界なので、先行者利益が結構高い。早く島根県として取り組んでほしい。

Ⅳ 島根を創る人をふやす

2　情報発信も、観光と同様に、誰に向けて、どういう人に来てほしいか、どう伝えたいかを考えるところから、作ったり、考えたりすべき。今回のように人を集めて、トップのやる気のある人とやっていけば変わってくる。これからまちづくりをしていこうという風潮になっているが、地元の人が参加したくなる仕掛けづくりが課題。

3　どこへ向けて、誰を呼びたいかを分けながら媒体をうまく活用することが大事。メディアにはそれぞれ特徴があり、内容によっていろいろ変えるのがいい。

4　人材不足でうまく地域の情報を発信できていない。一定のクオリティで情報発信できる人が確保できれば、状況は変わる。そのための人材育成が重要。

5　Ｕターンを強制できないという人が多いが、「島根でないとだめでしょ」とはっきり言う大人がいた方が、バランスがとれる。島根に残るとこういうことがあるとか、こういう人が格好いい大人だよと教えてあげる人がいたらいい。

6　島根型の関係人口の定義、イメージ・・・どういうキャリアの人がどういう形で入ってきて数年後にどんな姿をしているのか、といったイメージをつくらないと、と強く感じる。

7　一度外に出た人や外から来た人の方が島根の良さに気づいている。「帰ってこい」というＰＲはこれから大事。教育のところから。高校のときから。

Ｂ　継続検討とさせていただいたご意見

8　他県と連携して、島根の良さや情報を他県の駅にポスターを貼ってもらうなど、細かいところまでしたらいいのではないか。

9　隠岐四島みんなで、国際交流員が連携して、町の立場は別々でも、一緒に海外に向けて情報発信したい。

10　外に出て地元を考えると、当たり前だったものが誇らしいと気づく。地元の人も誇りが持てるし、発信する側も自信をもってできるような環境ができるといい。